

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (行事編)
- 3 俳句 正岡子規 松尾芭蕉 川端茅舎
- 4 あそびうた まほうのようおん
- 5 早口ことば 「夜飛ぶ鳥取りたい！」
- 6 かぞえうた 1枚 1畳 1双 (着物、畳、屏風)
- 7 今月の詩 山のあなたを 北原白秋
- 8 たし算 8の段
- 9 ことわざ 借りてきた猫 木を見て森を見ず
紺屋の白袴 砂上の楼閣
- 10 かけ算 9の段
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた こどもとこどもがけんかして
- 13 今月のうた 骨のうた
- 14 四字熟語 一長一短 花鳥風月 五里霧中
- 15 おはなし 町のねずみと田舎のねずみ
- 16 童謡 七つの子
- 17 イメージトレーニング 森のお友だち (第8話 おもちゃ作り)
(イメージしてみましょう)
- 18 漢詩 楓橋夜泊
- 19 百人一首 貞信公 清原深養父 文屋朝康 権中納言敦忠
- 20 復習コーナー
- 21 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

俳句

かき 柿くえば かね な 鐘が鳴るなり ほうりゆうじ 法隆寺

まさおか しき 正岡子規



もの 物いえば くちびるさむ 唇寒し あき かぜ 秋の風

まつ お ばしろう 松尾芭蕉



こんごう 金剛の つゆ 露ひとつぶや いし うえ 石の上

かわばた ぼうしゃ 川端茅舎



俳句

かき 柿くえば かね な 鐘が鳴るなり ほうりゆうじ 法隆寺

まさおか しき 正岡子規



もの 物いえば くちびるさむ 唇寒し あき 秋の風

まつ お ばしろう 松尾芭蕉



こんごう 金剛の つゆ 露ひとつぶや いし 石の上

かわばた ぼうしゃ 川端茅舎



俳句

かき 柿くえば かね な 鐘が鳴るなり ほうりゆうじ 法隆寺

まさおか しき 正岡子規



もの 物いえば くちびるさむ 唇寒し あき 秋の風

まつ お ばしろう 松尾芭蕉



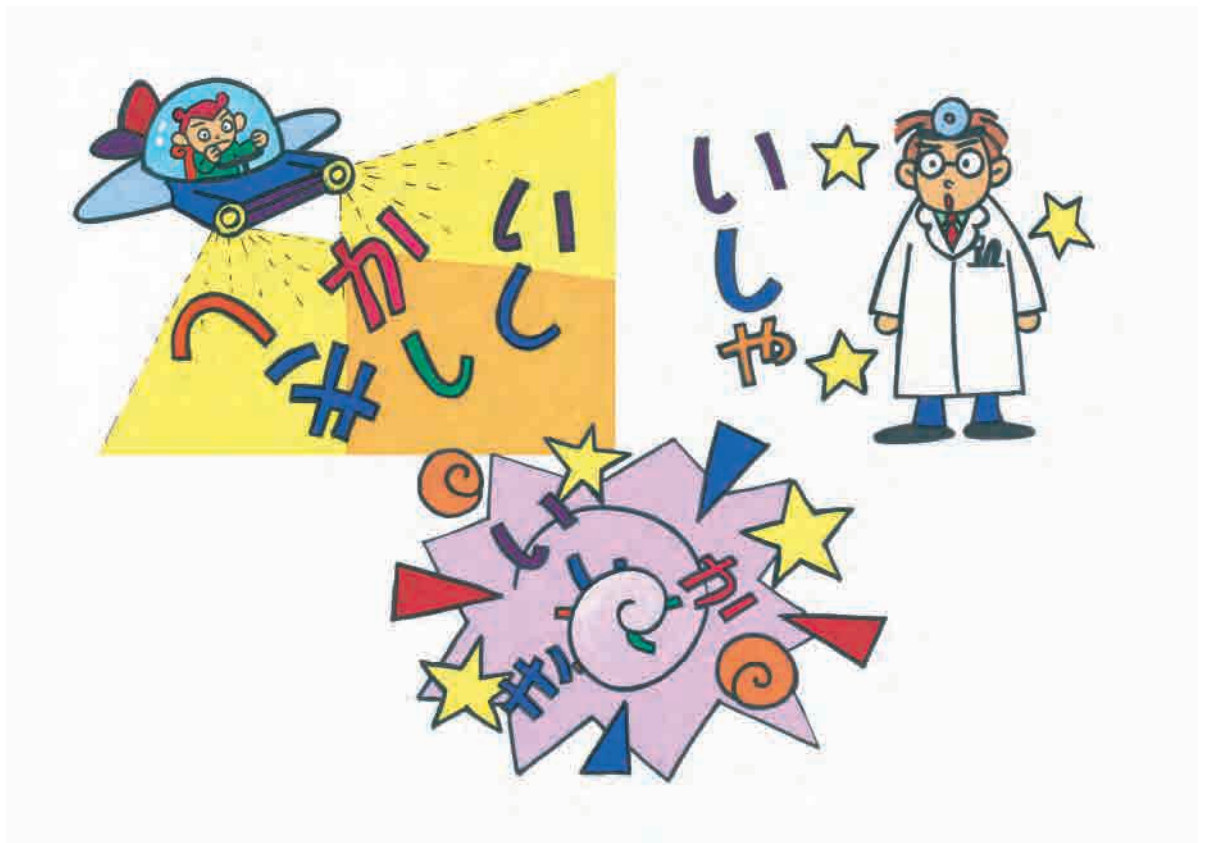
こんごう 金剛の つゆ 露ひとつぶや いし 石の上

かわばた ぼうしゃ 川端茅舎



《まほうのようおん》

ようおんビームをあてると ねじれちゃう
ことばに ビームをあてると まほうがかかる
いしに ビームをあてると いしゃ
かしに ビームをあてると かしゃ
きしに ビームをあてると きしゃ
ようおんビームは ことばのまほう



今月の詩

やま
山のあなたを

きたはらはくしゅう
北原白秋

やま
山のあなたを 見わたせば
あ^{やまこい}の山恋し 里^{さと}こいし。

やま
山のあなたの 青^{あお}空^{そら}よ
どうして入^{いり}日^ひが 遠^{とお}ござる。

やま
山のあなたの ふるさとよ
あ^{そらこい}の空恋し 母^{はは}こいし。



借りてきた猫

普段と違って、とてもおとなしくしているさま。



木を見て森を見ず

細かい点に注意しすぎて、全体をとらえないこと。



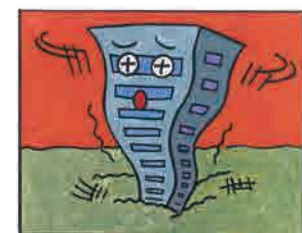
紺屋の白袴

染物屋でありながら、自分は染めない袴をはいていること。つまり、他人のためにばかり忙しくて、自分のことをする暇がないこと。



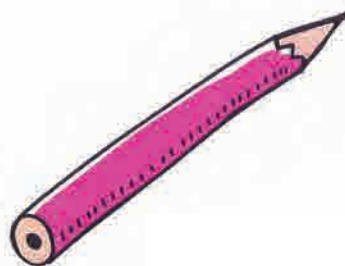
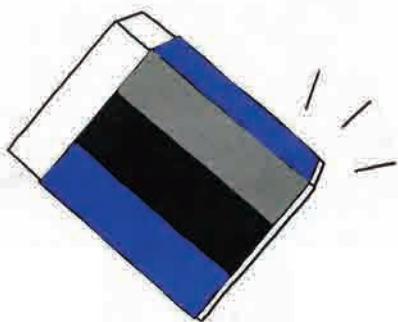
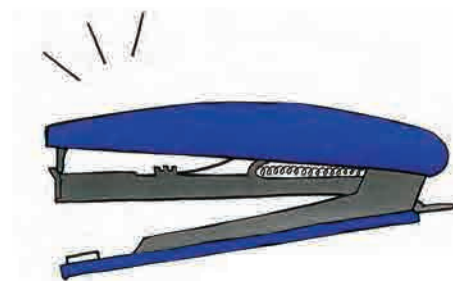
砂上の楼閣

砂の上に立てた楼閣は、基礎が弱くてすぐに倒れてしまうように、物事の基礎がしっかりしていないため、すぐに失敗しそうな計画のたとえ。



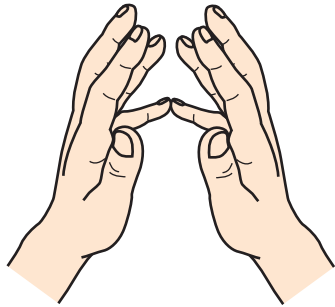
なぜなぜ

- 1 絵えをかくのが大好きだいすき。でも使うつかとだんだんちい小さく
なってくるものなあに？
- 2 口くちからはりを出してだ、紙かみと紙かみをとめるものなあに？
- 3 働はたらけば働はたらくほど、小ちいさくなってしままうものなあに？
- 4 使つかえば使つかうほど、短みじかくなる細ほそ長いながぼうはなあに？



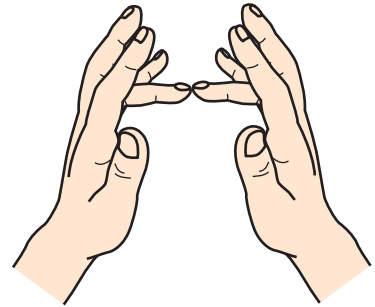
《こどもとこどもがけんかして》

① こどもとこどもがけんかして



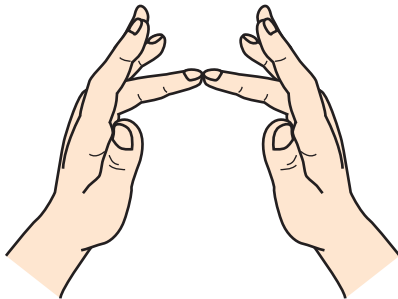
こゆびとこゆびを
うたにあわせてトントントン

② くすりやさんがとめたけど



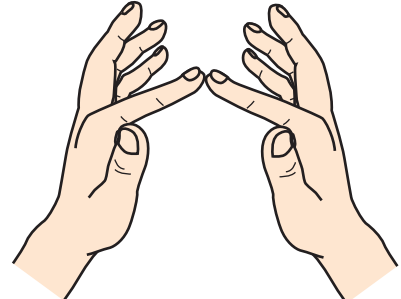
くすりゆびとくすりゆびで
トントントン

③ なかなかなかなかとまらない



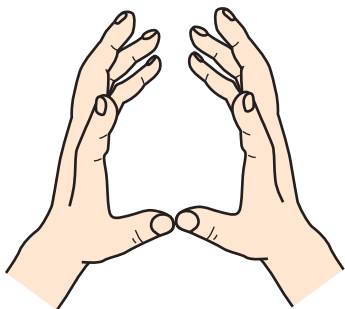
なかゆびとなかゆびで
トントントン

④ ひとたちちゃわらう



ひとさしゆびとひとさしゆびで
トントントン

⑤ おやたちやおこる



おやゆびとおやゆびで
トントントン

《^{ほね}骨のうた》

^{ほね}骨がなければ からだはぐにやぐにや

^た立つことも ^{すわ}座ることも ^{なに}何もできない

^{からだ}体の形をつくり ^{からだ}体をささえる ^{だいじ}大事な大事な大事な ^{ほね}骨 ^{ほね}骨

^{ひと}人の体には ^{ほね}骨が全部で 206 206

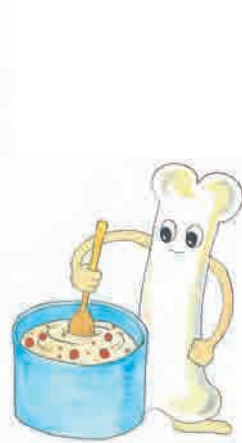
^{ほね}骨の形は ^{おお}大きくわけて 3種類 3種類

^{ちょうこつ}長骨・^{たんこつ}短骨・^{へんぺいこつ}扁平骨 ^{ちょうこつ}長骨・^{たんこつ}短骨・^{へんぺいこつ}扁平骨 ^{ちょうこつ}長骨・^{たんこつ}短骨・^{へんぺいこつ}扁平骨 ^{こつ}骨

^{ほね}骨の仕事は ^{おお}大きくわけて 3種類

^{のう}脳や^{ないぞうまも}内臓守り ^{けつえき}血液つくり カルシウムをたくわえる

^{つよ}強くて ^{じょうぶ}じょうぶで ^{かる}軽い ^{すぐれた}すぐれたつくり ^{ほね}骨 ^{ほね}骨……



いっちょういったん
一長一短

ちようしよ たんしよ
長所もあり、短所もあること。



かちようふうげつ
花鳥風月

しぜん うつく ふうけい しぜん あいて し かいが
自然の美しい風景。または自然を相手に詩や絵画
などをつくる風雅な遊び。

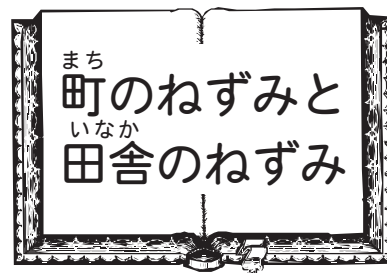


ごり むちゆう
五里霧中

ものごと はんたん
物事の判断がつかず、どうしていいかわからない
じょうたい
状態。



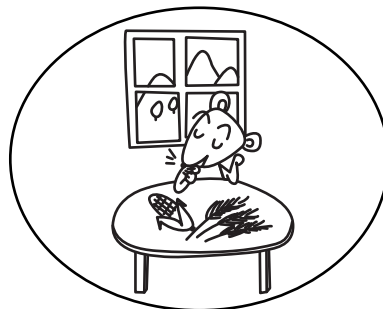
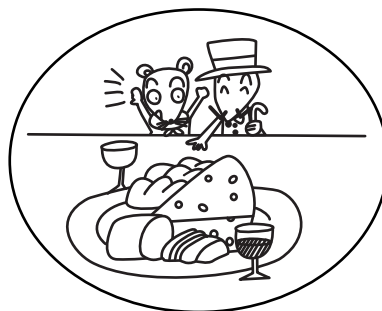
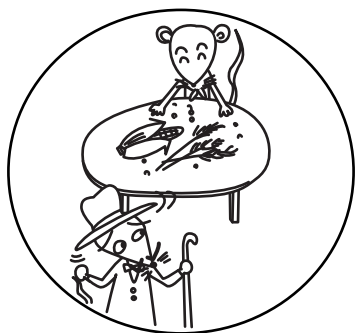
おはなし



「町のねずみと田舎のねずみ」は、田舎のねずみが町での生活を体験するお話です。

お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 田舎のねずみは、田舎のどういう所が気に入っていましたか。
- 2 遊びに来た町のねずみに田舎のねずみは、どんなごちそうを出しましたか。
- 3 町へ遊びに行った田舎のねずみは、はじめてテーブルの上のごちそうを見て町のねずみに対して、どのように思いましたか。
- 4 ごちそうを食べようとして、2回目に邪魔をしたのは、何だったでしょう。
- 5 田舎のねずみは、「ぼくは、もういらないよ。君が食べて。」と言いましたが、どうしてですか。
- 6 田舎のねずみは、結局どう思って、どうしましたか。



楓橋夜泊
ふうきょうやほく

張
ちよう

継
けい

夜半の鐘声	姑蘇城外	江楓漁火	月落ち	烏啼
客船に到る	寒山寺	愁眠に	霜天に満つ	

やはんのしょうせい
 こそじょうがい
 こうふうぎよか
 つきおち
 からすな
 かんざんじ
 しゅうみん
 しもてん
 いた
 たい
 み

百人一首

逢^あの^{のち}ひ^い見^みて^の
後^{のち}の^{こころ}心^{こころ}に^の
昔^{むかし}は^{もの}物^{もの}を^を
思^{おも}は^はざ^りり^{けり}

(権中納言敦忠)

白^{しら}露^{つゆ}に^に
風^{かぜ}の^の吹^ふき^しく^く
貫^{つらぬ}き^とめ^ぬ
秋^{あき}の^の野^のは^は
玉^{たま}ぞ^ち散^ちり^{ける}

(文屋朝康)

夏^{なつ}の^の夜^よは^は
ま^まだ^だ宵^よな^なが^がら^ら
雲^{くも}の^のい^いづ^づこ^こに^に
明^あけ^けぬ^ぬる^るを^を
月^{つき}宿^{やど}る^るら^らむ^む

(清原深養父)

小^お倉^{ぐら}山^{やま}
峰^{みね}の^のも^もみ^みぢ^ぢ葉^は
今^{いま}一^{ひと}度^{たび}の^の行^み幸^{ゆき}待^また^たな^なむ^む

(貞信公)



貞信公

借りてきた猫

普段と違って、とてもおとなしくしているさま。



木を見て森を見ず

細かい点に注意しすぎて、全体をとらえないこと。



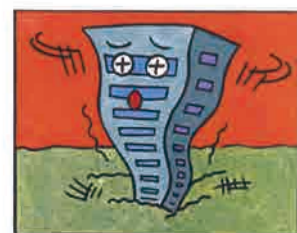
紺屋の白袴

染物屋でありながら、自分は染めない袴をはいていること。つまり、他人のためにばかり忙しくて、自分のことをする暇がないこと。



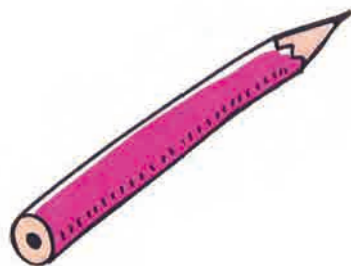
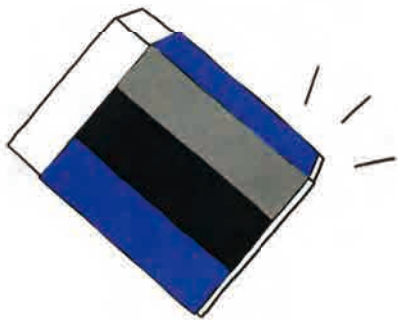
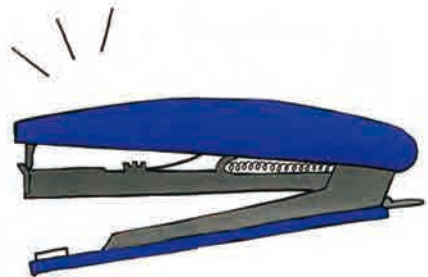
砂上の楼閣

砂の上に立てた楼閣は、基礎が弱くてすぐに倒れてしまうように、物事の基礎がしっかりしていないため、すぐに失敗しそうな計画のたとえ。



なぜなぜ

- 1 絵えをかくのが大好きだいすき。でも使うつかとだんだんちい小さく
なってくるものなあに？
- 2 口くちからはりを出してだ、紙かみと紙かみをとめるものなあに？
- 3 働はたらけば働はたらくほど、小ちいさくなってしままうものなあに？
- 4 使つかえば使つかうほど、短みじかくなる細ほそ長いながぼうはなあに？



いっちょういったん
一長一短

ちょうしょ たんしょ
長所もあり、短所もあること。



かちょうふうげつ
花鳥風月

しぜん うつく ふうけい または しぜん あいて し かいが
自然の美しい風景。または自然を相手に詩や絵画
などをつくるふうが あそ
風雅な遊び。



ごり おちゅう
五里霧中

ものごと はんたん
物事の判断がつかず、どうしていいかわからない
じょうたい
状態。



借りてきた猫

普段と違って、とてもおとなしくしているさま。



木を見て森を見ず

細かい点に注意しすぎて、全体をとらえないこと。



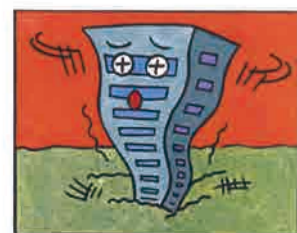
紺屋の白袴

染物屋でありながら、自分は染めない袴をはいていること。つまり、他人のためにばかり忙しくて、自分のことをする暇がないこと。



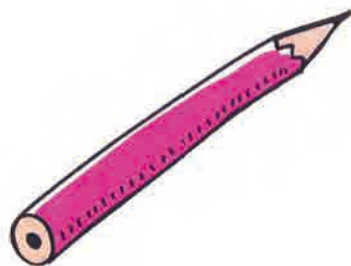
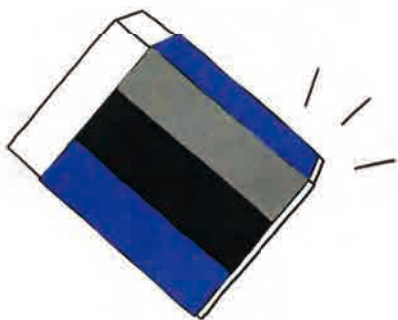
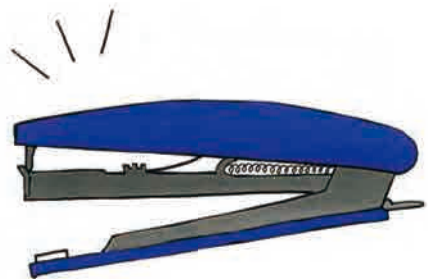
砂上の楼閣

砂の上に立てた楼閣は、基礎が弱くてすぐに倒れてしまうように、物事の基礎がしっかりしていないため、すぐに失敗しそうな計画のたとえ。



なぜなぜ

- 1 絵えをかくのが大好きだいすき。でも使うつかとだんだんちい小さく
なってくるものなあに？
- 2 口くちからはりを出してだ、紙かみと紙かみをとめるものなあに？
- 3 働はたらけば働はたらくほど、小ちいさくなってしままうものなあに？
- 4 使つかえば使つかうほど、短みじかくなる細ほそ長ながいぼうはなあに？



いっちょういったん
一長一短

ちょうしょ たんしょ
長所もあり、短所もあること。



かちょうふうげつ
花鳥風月

しぜん うつく ふうけい または しぜん あいて し かいが
自然の美しい風景。または自然を相手に詩や絵画
などをつくる風雅な遊び。



ごり おちゅう
五里霧中

ものごと はんたん
物事の判断がつかず、どうしていいかわからない
じょうたい
状態。

